

G-SEC Newsletter

No.37 2014.9.15

～巻頭特集～ 研究プロジェクト紹介

「サービスデザイン」による 新たな価値の創造

武山 政直（慶應義塾大学G-SEC副所長・経済学部教授）

武山政直教授は、日本でも注目され始めている「サービスデザイン」という分野の研究をされています。G-SECにおける研究活動についてお話をうかがいました。



武山 政直（たけやま まさなお）

—武山先生のG-SECにおける研究テーマやねらいについて、お聞かせいただけますでしょうか。

テーマとしては、「サービスデザイン」を扱っています。事業モデルを含めた新しいサービスの構築や、イノベーションをどのように戦略的に起こしていくかという方法づくりに関する研究を行っています。一口に「サービス」と言っても、いわゆるITを使った先端的なサービスから地域の新しいコミュニティを作っていくなど、様々なところでサービスの転換が社会の中で求められていると考えています。そういった課題に対して、サービス作りという観点からどのような新しい知見を生み出し、世の中に役立てていけるかが問題意識となっています。

「サービスデザイン」という分野自体は、ヨーロッパを中心に1980年代からその歴史はありますが、2000年以降特に注目されるようになりました。日本にはまだ馴染みの薄い分野かもしれませんが、昨年あたりから私も中核メンバーとなって、「サービスデザイン」という分野を日本に導入する動きを進めています。私が行っている研究は今年度のG-SECにおける活動プロジェクトにもあるように、

「産学共同研究」というスタイルが多いのが特徴です。企業は新しいサービスの仕組みを見出すために、どのように進めていけば良いのかという方法自体を求めている場合もあります。その方法づくりから携わり、そこで得た方法を用いて実際に企業が抱えている新しいイノベーションをテーマとして、さらに応用した形で新しいサービスを生み出していくという実践的な内容となっています。

今後はG-SECが目指す「学内外との結節点」としての役割を、「サービスデザイン」をキーにして取り組んでいきたいと考えています。

武山政直

PROFILE

慶應義塾大学G-SEC副所長・経済学部教授

[専門分野]

経済地理、消費者行動分析、都市メディア論

[経歴]

1988年慶應義塾大学経済学部卒業、同大学院経済学研究科進学。1994年カリフォルニア大学にて学位取得（Ph. D in Geography）。2003年より慶應義塾大学経済学部助教授、2008年同教授、2012年G-SEC副所長。



<特集> 研究プロジェクト紹介 武山政直教授
「サービスデザイン」による新たな価値の創造
開催報告 G-SEC Faculty Seminar 第18回 第19回
G-SEC アメリカ研究プロジェクト関連イベント

<特集> 研究プロジェクト紹介 武山政直教授インタビュー (続き) 「サービスデザイン」による新たな価値の創造

「サービスデザイン」における今後の展望について、お聞かせ下さい。

「サービスデザイン」はデザイン分野の中でもビジネス寄りなので、いわゆる「形を作る」という意味ではなく、今までになかった「仕組みを生み出していく」という研究スタイルだと考えています。ただこれまでは、どのように新しい価値を生み出し、具体的な仕組みや仕掛けに落とし込んでいくかという部分が勘と経験に頼ってきたことも否めません。今後は、現状分析と将来予測をしっかりと行うことにより、より広がりのあるものにしていければと考えています。

また、デザインというアプローチが大学の従来の研究にはなかなか馴染みにくいという側面もあります。こうした分野をいかにしてアカデミックな業績として成果を出していくかは試行錯誤しているところですが、国際的なカンファレンスも開催されていますので、そうした場で発表する機会を増やしていくことにより、アカデミックな成果も残していきたいと考えています。

G-SECとしては社会に対してより実践的なメッセージを発信していくというミッションもあるので、産学共同研究やSFC ORF等を通じて広く知って頂きたいと考えています。

続いて、港区芝地区の委託研究プロジェクトについてお聞かせ下さい。

地域コミュニティづくりは、少子高齢化時代における地域生活の基盤再構築を目的として、いろいろな自治体が行っていますが、東日本大震災以降は、災害発生時の互助活動の拠点としての役割も見直されて

います。

このような取り組みは、大上段に構えて問題解決するという形ではなく、一人一人のローカルなスケールで実践的に考えることが重要だと考えています。そのため、参加される方一人一人が興味を持って自分のできる等身大の範囲で新しいアイデアを出し、そこから地域ネットワークを作って楽しみながら持続させていくというコンセプトで進めており、地域コミュニティ構築の在り方が上手くできつつあると思います。

活動のひとつとして、港区芝地区総合支所との協働により「ご近所イノベーター養成講座」を開講しています。この活動は坂倉杏介特任講師が中心になって支援していますが、個々人の関心に合わせて具体的な取り組みに落とし込んでもらっているので、一般論を知識として伝えるだけではなく、自身の課題として消化し、アクションに移すということが体験できる講座になっています。



坂倉 杏介 (さかくら きょうすけ)
グローバルセキュリティ研究所特任講師

この活動の背景に「サービスデザイン」の考え方が生きています。地域の知恵だけでなく、学問により体系立てられた知識も含んでおり、それらを自分のものとして吸収して応用できるようになるということが、まさに大学がこのような活動を支援する意義だと思います。類似の取り組みを行っている大学も増え始めていますので、今後はこうした横の連携もぜひ進めたいと考えています。

2014年度G-SEC設置研究プロジェクト (武山政直教授が研究代表者を務める研究課題)

■社会的時流および消費者動向を鑑みた完全新規価値創造(提唱)手法(デザインドリブンイノベーション)の開発
ITCを活用した実空間におけるコミュニケーション設計および参加型「サービスデザイン」の開発を目的として、事例研究に基づきデザイン用ツールを開発し、産業空間のプロトタイプ設計を行う。

■トランスフォーマティブ「サービスデザイン」に関する調査研究

トランスフォーマティブ「サービスデザイン」に関する現在の研究動向、実践的な知見を整理し、「サービスデザイン」が社会システムのデザインに貢献するために必要な技術について研究する。

■未来構想と「サービスデザイン」の統合に関する研究

創造的都市の将来構想を題材として、未来シナリオの設計と「サービスデザイン」のアイデア形成およびプロトタイプングを組み合わせたイノベーション手法を開発し、その有効性を実証的に評価する。

プレスリリース (2014年9月4日) http://www.keio.ac.jp/ja/press_release/2014/osa3qr000008qf1.html

■地域コミュニティサポートスタッフ養成に関する調査研究及び運營業務委託

「芝の地域力再発見事業」事業拠点や新橋六丁目区民交流拠点、町会等の組織で活躍できるような、人と人、組織と組織をつなぐ役割を果たす人材を発掘し養成するため、専任の研究員を配置して調査研究、講座構築を進めるとともに、講座を開講・運営する。

G-SEC Faculty Seminar開催報告

第18回 「100企業の研究」 -ポスト・グローバル資本主義を見据えて-

第19回 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて

G-SEC Faculty Seminar開催報告

「100年企業の研究」 -ポスト・グローバル資本主義を見据えて-

講師: 小原 泰氏 新日本パブリック・アフェアーズ株式会社 代表取締役



第18回 G-SEC Faculty Seminar

「100年企業の研究」

-ポスト・グローバル資本主義を見据えて-

日時: 2014年5月15日 (木) 18:30~20:00

会場: 慶應義塾大学 三田キャンパス 東館6階 G-SEC Lab

コーディネーター: 田村 次朗

(慶應義塾大学G-SEC副所長・法学部教授)

小原 泰 (こはら やすし)

新日本パブリック・アフェアーズ株式会社 代表取締役

新日本パブリック・アフェアーズ株式会社代表取締役の小原氏をお招きして今後の企業の在り方をお話しいただいた。

近年の企業のグローバル志向は強欲資本主義とも形容できる状態になっており、これにより様々な弊害が生じてきている。日本には世界的に見ても老舗企業の数が多く、数々の災害を生き抜いてきたそれらの企業から学べることを抽出し、現在の弊害に対処する方策を探った。日本の企業は、風土・精神・文化の独特

の背景から利他主義や価値中心主義などが育ち、これが企業の持続可能性へとつながっている。利益重視で利己的な売り抜ける資本主義から育てる資本主義へと変容させる、和魂洋才の企業の在り方の重要性に気付かされるものであった。



当日は70名を超える方に参加いただき、質疑応答まで白熱した雰囲気で行った。

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて

講師: 平田 竹男氏 内閣官房2020年オリンピック・パラリンピック東京大会推進室長



第19回 G-SEC Faculty Seminar

2020年東京オリンピック・パラリンピック
競技大会に向けて

日時: 2014年6月19日 (木) 18:30~20:00

会場: 慶應義塾大学 三田キャンパス 東館6階 G-SEC Lab

コーディネーター: 田村 次朗

(慶應義塾大学G-SEC副所長・法学部教授)

平田 竹男 (ひらた たけお)

内閣官房2020年オリンピック・パラリンピック東京大会推進室長

内閣官房2020年オリンピック・パラリンピック東京大会推進室長の平田竹男氏をお招きして、東京オリンピック・パラリンピックへ向けての活動についてお話しいただいた。

オリンピック・パラリンピックのためには、直接スポーツに関わる仕事のみではなく、外国人観光客が快適に過ごせるように、多言語表記等といった種々の準備が必要になってくる。また、文化の祭典でもあることから、イベントなどにより文化を多く

の国の人に体感してもらい、日本文化を広めることも重要である。そのように文化を見せることで、2020年の成功のみならず、それ以降の日本の発展にまでつながっていく。レガシーを残すために日本という国を示す必要性を感じさせられた。

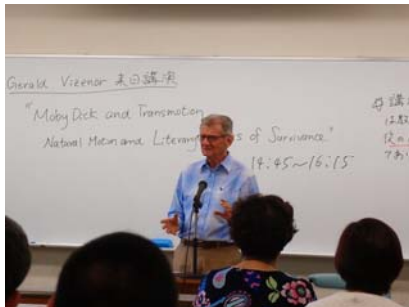


事前申込み開始直後から多数の申込みがあり、「東京オリンピック・パラリンピック」というテーマへの関心の高さがうかがえた。

G-SEC アメリカ研究プロジェクト イベント^(※1)

ジェラルド・ヴィゼナー氏 来日講演

『白鯨』またはピークオド号のイシュメール



Gerald Vizenor氏 (カリフォルニア大学バークレー校名誉教授・作家)

現代アメリカを代表する先住民作家ジェラルド・ヴィゼナー氏が、2004年以来10年ぶりに再来日した。氏は、全米図書賞をはじめとする数々の荣誉に輝くポストモダン文学の巨匠。詩集や小説、評論、傑作選などすべて合わせるとゆうに30冊以上の著作を持つ。アメリカ陸軍時代の1952年から55年まで日本に駐在していたため、日本への愛着が深い。

前回2004年の来日では、核時代の歌舞伎を目論み日本人と北米インディアンの比較神話学的想像力をフル回転させた長編小説『ヒロシマ・ブギ』 *Hiroshima Bugi: Atom 57* (Lincoln: U of Nebraska P, 2003) が大きな話題を呼んでいたため、同作品と彼の愛する19世紀ロマン派作家ハーマン・メルヴィルの代表的長編小説『白鯨』との関わりを講義していただいた。

今回は、折しも彼が第一次世界大戦とその後のインディアン義兄弟の運命を主題にした歴史小説 『青い大鴉』 *Blue Ravens*とイマジズム以降の英語による俳句に新風を吹き込む 『鴉をめぐる俳句集』 *Favor of Crows* を出版したので、再びメルヴィルとの関わりを、まったく新しい角度から講義していただくことにした。

はたして講演原稿は英語の原題を“MOBY DICK AND TRANSMOTION: Natural Motion and Literary Scenes of Survivance”といい、メルヴィルの『白鯨』のうちには鯨から海、捕鯨船、登場人物に至るまで、いわゆる自然な運動 (natural motion) とともに、そこにひそむ神秘をも掬いとろうとした幻視的躍動 (transmotion) と呼ぶべきものがあるということ、膨大な事例によって説得力豊かに実証してみせるものであった。

たしかにメルヴィルの生きた 19世紀中葉はピューリタニズム、ユニテリアニズムを超えるトランセンデンタリズム (超越主義) が絶大な影響力を持っていたから、この視点は有効である。同様の観点は作家の最新作にも見られるので、今回の講演は先住民的モダニズム・アートの視点からするロマンティシズムの抜本的な読み直しといってもよい。活発な質疑応答に積極的に参加された日本メルヴィル学会会長・牧野有通教授も指摘されたように、従来のメルヴィル研究には見られなかった斬新な解釈が参会者一同を大いに啓発した。

(巽 孝之 (※2))

※1：グローバルセキュリティ研究所アメリカ研究プロジェクト

慶應義塾におけるアメリカ合衆国についての総合的な研究基盤の形成を目指して、2011年に設立された。

※2：巽 孝之 (たつみ たかゆき) (慶應義塾大学文学部教授)

アメリカ文学の研究者として広く知られ、コーネル大学大学院にて博士号(Ph. D, 1987)を取得し、最近ではスタンフォード大学客員研究員を勤めた。日本アメリカ文学学会会長、アメリカ学会理事、日本英文学会監事、北米 *Journal of Transnational American Studies*編集委員を務め、文化・文学の側面からのアメリカ研究をリードしている。

G-SEC Newsletter No. 37 2014.9.15

発行人=竹中平蔵 編集=G-SEC事務局

発行所=慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所 〒108-8345 東京都港区三田2-15-45

G-SECニューズレターはホームページ(<http://www1.gsec.keio.ac.jp/>)からもご覧頂けます。メールによる配信通知希望の方は、G-SECのホームページからお申込みください。